

## 大阪日本橋で働く人、住む人が思う商店街・まちの今後

正会員 ○岡絵理子\*1

### 7. 都市計画—3. 市街地変容と都市・地域の再生—f. 街なか再生・街なか居住

#### 日本橋筋商店街、職住近接、アンケート調査

##### 1. 研究の背景と目的

大阪市浪速区に位置する日本橋界隈の商店街は、難波・高島屋東側の”なんさん通り”に沿って堺筋を右折し、日本橋四丁目から五丁目あたりが中心である。日本橋は、道頓堀にかかる堺筋の橋の名称であり、古代から重要は街道であった。江戸時代には紀州街道の旅籠や木賃宿が並び、長町とよばれていた。

明治に入り、長町裏に形成されていた貧民街は1903年の第5回国勧業博覧会の開催に合わせ、一掃され、さらに昭和の不良住宅改良事業により、一部の貧民街はRC市営共同住宅に建て替えられた。現在でもこの事業の一環で市営住宅が多く立地する地域となっている。第二次世界大戦前は、堺筋沿道の商店街には、古着商、古本屋が多数軒を連ねていたが、戦災によりRC市営住宅以外は焼け野原となった。戦後は電気屋街となり、「でんでんタウン」として専門店から大型量販店までが沿道に並び、近畿一円の電気屋街として賑わった。しかし、バブル経済崩壊後は量販店の撤退が相次ぎ、現在に至っている。

商店の集積は堺筋から西に広がり、マニアやオタク向けのパーツショップ、同人誌、コスプレ、フィギュアなどの店が多く出店し「オタロード」と呼ばれる地域となっている。日本橋筋商店街振興組合では、このような動きを受け、2005年よりコスプレのイベントである「日本橋ストリートフェスタ」を開催している。日本橋商店会や五階百貨店の地域は、戦後の闇市の様相を呈しており、独特の雰囲気がある。近年は、隣接する黒門市場人気から、アジアからの観光客の宿泊や買い物のためのホテルや商店も出店し、堺筋沿道には様々な業種の店舗が出店している。特に、これまでほとんどなかった飲食店やコンビニエンスストアが出店、メイドカフェや大



図1 調査対象とした町丁

人向けのDVD店などオタク向け中小規模店舗が並んでいる。このような状態に、商店街としての将来をどう考えるか日本橋商店街振興会の課題であり、また、長年後背の住宅地との関係も難しいものとなっている。

そこで、地域で働く人たち、住んでいる人たちが日本橋の現場と今後をどのように思っているかを明らかにするためにアンケート調査を実施した。

##### 2. 調査対象の概要

町名に日本橋がつく町のうち、なんさん通り以南の8つの町（日本橋3丁目、4丁目、5丁目、日本橋東1丁目、2丁目、3丁目、日本橋西1丁目、2丁目）について、国勢調査などのデータを用いて調査対象を選定した（図1）。

西1丁目は、昼夜間人口比率が4倍を超えており、居住地ではなく就労地と言える。また、市営住宅のある町（日本橋5丁目、東1丁目、西2丁目）は概して高齢化率が高い。持ち家率が10%を下回っている日本橋3丁目、5丁目、東3丁目の中でも、

3丁目は高齢化率が最も低い。日本橋筋商店街振興会の方々の意見を参考に、昼夜間人口比率の高い西1丁目と、その南の西2丁目を調査対象から外すこととした。この2町は南海電鉄なんば駅に隣接することから、日本橋というよりなんばであるという認識である。

### 3. 調査の方法

アンケート票は日本橋で働いている人700票、日本橋に住んでいる人2000票を配布した。住んでいる人へは、6月28日住宅にポストインし1週間留置、ポストへ投函とした。市営住宅には配布していない。働いている人は7月6日、7日に店舗を訪問し、店長やそれに準ずる方に調査への協力をお願いし、承諾を得られた場合、回答してもらえらる従業員数分のアンケートを手渡した。こちらも1週間留置、ポストへの投函を依頼した。アンケート表は同じものを用い、フェイスシートは住んでいる人、働いている人それぞれに回答していただいた。住んでおり働いてもいる人は両方のフェイスシートに記入していただいた。

その結果、2700票配布し、297票回収、回収率は11.0%、有効回答数は286票、有効回答率<sup>注1</sup>は96.3%であった。

### 4. 調査の結果

#### (1) 回答者の属性 (表1)

全体として、男女比は男性54.2%、女性39.9%、年齢構成も35歳未満37.4%、35～55歳33.6%、55歳以上24.1%と大きな偏りがなかった。回答者のうち働いている人45.5%、働き・住んでいる人11.5%、住んでいる人43.0%であった。働いている人、働き・住んでいる人の6割が男性であったが、住んでいる人の男女比はほぼ等しかった。また、55歳以上の人は働いている人では12.3%と割合が低いが、働き・住んでいる人では48.5%と半数近くを占めていた。一方、住んでいる人では35歳未満が42.7%を占めていた。居住地は、持ち家率が28.6%の日本橋4丁目が最も多く、持ち家率が6.5%と大変低い日本橋3丁目は、35歳未満の居住者の34.9%が住んでいることがわかった。

表1 回答者の属性

	男性	女性	無回答	35歳未満	35～55歳	55歳以上	無回答	合計
働いている人	77 59.2%	43 33.1%	10 7.7%	44 33.8%	57 43.8%	16 12.3%	13 10.0%	130 100.0%
働き・住んでいる人	22 66.7%	9 27.3%	2 6.1%	12 36.4%	5 15.2%	16 48.5%	0 0.0%	33 100.0%
住んでいる人	56 45.5%	62 50.4%	5 4.1%	51 41.5%	34 27.6%	37 30.1%	1 0.8%	123 100.0%
計	155 54.2%	114 39.9%	17 5.9%	107 37.4%	96 33.6%	69 24.1%	14 4.9%	286 100.0%

#### (2) 日本橋で働く・住む理由

日本橋で働く理由を尋ねたところ、55歳以上では最も割合の高いのは「親の仕事を継いだ」であり、35歳未満では、「収入を得るため」が4割を超え最も高いが、ついで「日本橋で働きたかった」が17.9%を占めていた。35歳以上55歳未満の「その他」に解答の内訳は、半数以上が転勤や配置換えであった。

日本橋に住む理由を尋ねたところ、55歳以上は4割が「生まれた時から住んでいる」と答えているが、35歳以上55歳未満は、「気に入った住まいがあったから」が2割を占めていた。また、35歳未満では、「日本橋に住みたかった」2割を超えて、最も割合の高い解答であった。

このように、55歳以上は、親を継いで働き・住んでいたが、35歳未満には2割は日本橋へのこだわりがあることがわかった。

図2 年齢別日本橋で働く理由

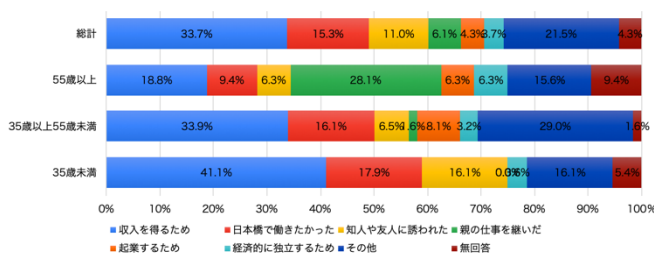
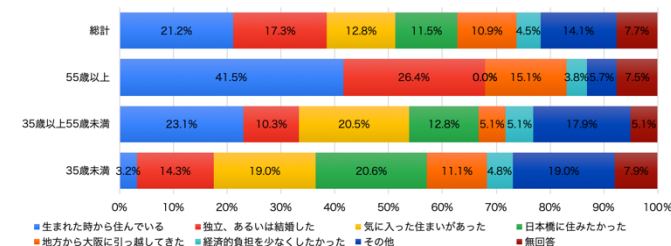


図3 年齢別日本橋に住む理由



#### (3) 日本橋での暮らし

あなたがよく行くところはどこですか、との質問でも、年齢層の差は顕著に表れた。55歳以上は黒門市場、35歳以上55歳未満は日本橋商店街、35歳未

満はなんさん通りを挙げており、年齢層により、よく行く場所が違うことがわかった。

日本橋地域にある業種で、月に1度以上訪れる店を尋ねたところ、表2のように、どの年齢層でも訪れる店は、コンビニエンスストアで、その55歳以上で、3割以上が家電量販店に行くこと、35歳未満で、2割以上がラーメン店、アニメショップに行くこと、35歳以上55歳未満で、2割以上が家電量販店に行くことが特徴である。35歳未満では、割合は高くはないものの、1割以上はアニメ系リサイクルショップやゲームセンターなど、日本橋商店街に独特の店舗に行っていることがわかった。

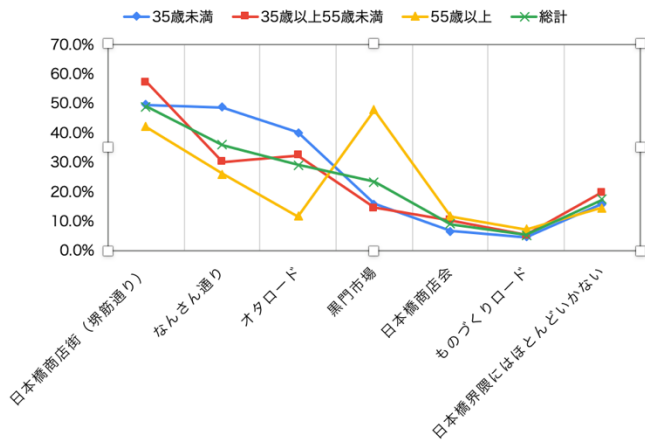


図4 年齢別よく行く街

表2 年齢別月に1度は行く業種

	70%以上	60%以上	50%以上	40%以上	30%以上	20%以上	10%以上	5%以上
35歳未満	コンビニエンス・ストア					ラーメン店、アニメショップ	家電量販店、アニメ系リサイクルショップ、ゲームセンター	模型店、居酒屋、CDショップ、チェーン店カフェ、家電専門店
35歳以上55歳未満		コンビニエンス・ストア				家電量販店	ラーメン店、アニメショップ	CDショップ、アニメ系リサイクルショップ、ゲームセンター、家電専門店、電気部品店
55歳以上			コンビニエンス・ストア		家電量販店		居酒屋、パソコンショップ、チェーン店のカフェ、オーディオ店	

(4) まちの変化への評価

日本橋筋商店街振興組合へのヒアリングで、日本橋の大きな変化だと考えられている7つの項目について、よいこと・なんともいえない・よい、の3択で尋ねた。

電気店などが減ったことは、55歳以上の53.6%がよくないことと答えているが、35歳未満では22.4%で、31.2ポイントの差があった。1階に店のない建物が増えたことは、55歳以上の56.5%がよくないことと答えているが、35歳未満では21.5%で、35.0ポイントの差があった。飲食店が増えていること

は、35歳未満の80.4%がよいことと答えているが、55歳以上では44.9%で、35.5ポイントの差があった。外国人観光客用の店が増えていることは、35歳未満で80.4%がよいことと答えているが、55歳以上では44.9%で、35.5ポイントの差があった。

表3 まちの変化への年齢層別の評価

まちの変化	年齢層	よいこと	なんともいえない	よくないこと	無回答	総計
電気店や電器関係の店が減ったこと	35歳未満	3.7%	72.9%	22.4%	0.9%	100.0%
	35歳-55歳	1.0%	47.9%	44.8%	6.3%	100.0%
	55歳以上	0.0%	42.0%	53.6%	4.3%	100.0%
	総計	1.7%	55.9%	38.5%	3.8%	100.0%
1階に店のない建物が増えていること	35歳未満	17.8%	58.9%	21.5%	1.9%	100.0%
	35歳-55歳	11.5%	44.8%	36.5%	7.3%	100.0%
	55歳以上	5.8%	30.4%	56.5%	7.2%	100.0%
	総計	12.2%	46.2%	36.4%	5.2%	100.0%
飲食店が増えていること	35歳未満	80.4%	19.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	35歳-55歳	65.6%	21.9%	4.2%	8.3%	100.0%
	55歳以上	44.9%	40.6%	2.9%	11.6%	100.0%
	総計	66.8%	25.5%	2.1%	5.6%	100.0%
高級な外資系のホテルが開業すること	35歳未満	36.4%	52.3%	10.3%	0.9%	100.0%
	35歳-55歳	33.3%	44.8%	13.5%	8.3%	100.0%
	55歳以上	49.3%	33.3%	8.7%	8.7%	100.0%
	総計	39.2%	44.8%	10.5%	5.6%	100.0%
堺筋沿いに大人向けの専門店ができること	35歳未満	16.8%	44.9%	37.4%	0.9%	100.0%
	35歳-55歳	5.2%	43.8%	42.7%	8.3%	100.0%
	55歳以上	5.8%	30.4%	55.1%	8.7%	100.0%
	総計	9.8%	42.3%	42.3%	5.6%	100.0%
木造の店舗が多く残っていること	35歳未満	35.5%	54.2%	9.3%	0.9%	100.0%
	35歳-55歳	31.3%	45.8%	14.6%	8.3%	100.0%
	55歳以上	21.7%	62.3%	5.8%	10.1%	100.0%
	総計	31.1%	53.1%	9.8%	5.9%	100.0%
外国人観光客用の店が増えていること	35歳未満	80.4%	19.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	35歳-55歳	65.6%	21.9%	4.2%	8.3%	100.0%
	55歳以上	44.9%	40.6%	2.9%	11.6%	100.0%
	総計	66.8%	25.5%	2.1%	5.6%	100.0%

(5) なって欲しいまちの姿

なって欲しい商店街の姿について尋ねたところ、55歳以上は、様々な新しい業種の企業ができる街、最先端の電気の専門店街、それぞれが31.9%で、一定の将来像が共有されていたが、35歳未満は、美味しくて安い飲食店が集積した街と2割が答えていたものの、将来イメージが共有されていなかった。

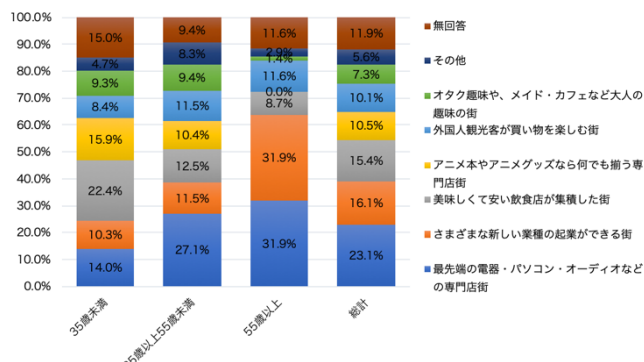


図5 年齢層別なってほしい商店街の姿

表4 年齢層別なっほしいまちの姿

	犯罪のない安全なまち	道路整備や掃除の行き届いたまち	大阪を代表する特別なまち	指向性の高い最先端のまち	昼間から誰でも来れる繁華街	お財布に優しい住みやすいまち	新しいビジネスを起業できるまち	住みやすい静かなまち	少し複雑なまち	特に若い人が集まるまち
35歳未満	63.6%	53.3%	39.3%	26.2%	27.1%	24.3%	12.1%	15.9%	7.5%	7.5%
35歳以上55歳未満	60.4%	44.8%	40.6%	33.3%	29.2%	22.9%	20.8%	14.6%	10.4%	7.3%
55歳以上	56.5%	56.5%	49.3%	26.1%	23.2%	23.2%	20.3%	10.1%	8.7%	2.9%
総計	60.1%	50.3%	39.2%	30.8%	27.6%	22.7%	17.5%	11.9%	11.2%	5.9%

なっほしいまちのすがたについては、犯罪のない安全なまち、整備や掃除の行き届いたきれいなまちと、世代を通して45%以上が答えており、ついで年齢層の差はあるものの大阪を代表する特別なまち、指向性の高い最先端のまちと25%以上がこたえていた。

(6) 具体的な整備について

日本橋筋商店街振興組合で考えている具体的な整備方法について、賛同するかどうかを尋ねたところ、「閉店してしまった店の看板を取る必要がある」には、年齢層を超えて25%以上が賛同していたが、そのほかに年齢を超えて賛同されている項目はなかった。

表5 年齢層別商店街の具体的な整備について

質問項目	35歳未満	35歳～55歳	55歳以上	無回答	総計
恵美須町からなんばまで、トラム(路面電車)が走ればよいと思う	23.4%	34.4%	44.9%	35.7%	32.9%
商店街のアーケードがなくなると明るく、よくなると思う	7.5%	2.1%	2.9%	0.0%	4.2%
日本橋商店会周辺は、木造の建物なので防火対策をする必要があると思う	29.9%	39.6%	21.7%	14.3%	30.4%
若い従業員や住んでいる人たちも一緒になっ、日本橋をもりあげたい	28.0%	29.2%	20.3%	21.4%	26.2%
閉店してしまった店の看板が残っているが、取る必要があると思う	29.0%	37.5%	39.1%	28.6%	34.3%
塀筋は、休日は歩行者専用道路にすれば良いと思う	19.6%	17.7%	26.1%	14.3%	20.3%
色々な店があっわかりにくいので、街情報をさらに発信してほしい	35.5%	35.4%	24.6%	21.4%	32.2%
このままでよい	6.5%	7.3%	2.9%	0.0%	5.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

5. まとめと考察

日本橋で働く人は、55歳以上では親の仕事を引き継いだ人が3割近くいたが他の年齢層では皆無で、35歳から55歳は転勤、配置換えなど本人の気持ちに関係なく働く場となった人がいる一方、35歳未満では日本橋で働きたかった、友達に誘われたといった個人的理由で働く人が多くみられた。

日本橋に住む人は、55歳以上では生まれた時か

ら、あるいは独立したからといった理由が半数以上見られたが、35歳未満では日本橋に住みたかった、気に入った住まいがあっったといった積極的な居住がみられた。このように、日本橋には、バックグラウンドの全く異なっ3つの世代の人々が働き・住んでいることがわかった。

これら、3つの年齢層の町との関わり方は大きく異なっっており、よく行くエリア、店も異なっっていた。3つの年齢層に共通して言えることは、日本橋の店舗を日常的にあまりつかっっていないと言う点で、これは商店街のありようとしては、極めて厳しいものとする。

近年の街の変化についての評価も、年齢層により大きく異なっっており、将来の商店街の姿についても、共通した認識が見られなかった。

全体として、55歳以上は、電気屋街としての持続性に拘っっており、35歳未満は、飲食店が増えていること、外国人用の店が増えることを高く評価しており、新しい日本橋の姿を肯定的に捉えていることがわかった。しかし、まちの将来像については、一定共通した認識があり、大阪を代表する特別な街になっほしい、指向性の高い最先端の町であっほしいとの意見は一致した。

今後のまちづくりには、若い世代が関わることに35歳未満の28.0%が賛同しているが、55歳以上では20.3%であった。こんごは世代を超えた理解の場、将来像を共有できる場をつくる必要がある。※本研究は、「日本橋にトラムを通してにぎわいを進める会」からの受託研究である。

<注釈>

注1 ; 日本橋で、働いていますか、住んでいますか、働き・住んでいますかの3択の問いに無回答だっ票を無効票とした。